

これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究

(平成29年度・平成30年度文部科学省研究指定)

より教育効果を高める時程の研究

～10分間のモジュール授業を通して～

宇治田原町教育委員会

1 カリキュラム・マネジメントの捉え方

質の高い教育実践を目指して、学校の現状を
的確に把握するとともに、授業内容を吟味し、
児童の実態に即した時程、授業方法、教材等
について柔軟に捉え、工夫し改善する中で、よ
り教育効果の高いカリキュラムを創造する。

2 カリキュラム・マネジメント研究の目的

新学習指導要領の改訂に伴う授業時数の増
加(3年以上の学年における 授業時数週1時
間、年間35時間の増加)に対して、児童の学習
意欲を高めより教育効果の上がる実施方法を
考案し、その是非を検証する研究を行うこと
によって、新学習指導要領の求める学びの実現
を目指す。

3 研究テーマ

より教育効果を高める時程の研究

4 研究プラン

(1) プランA (7校時目授業を実施する方法)

7時間目に授業実施

	月	火	水	木	金
1					
2					
休憩	中休	中休	中休	中休	中休
3					
4					
休憩	昼休	昼休	昼休	昼休	昼休
5					
6					
7		45			

45分間の授業枠を1コマ増やすために、4年以上の学年に7校時目の授業を設定することは、児童の気力面、体力面から無理があるのではないか。

(2) プランB (5校時授業日を6校時にする方法)

水曜日に6校時授業実施

	月	火	水	木	金
朝	朝会	朝会	朝会	朝会	朝会
1					
2					
休憩	中休	中休	中休	中休	中休
3					
4					
休憩	昼休	昼休	昼休	昼休	昼休
5					
6			45		

宇治田原町では水曜日を5校時授業としているが、3年以上の学年で水曜日に6校時目の授業を行うことは、すでに習慣化された放課後の児童の生活(塾や習い事等)への影響が甚大ではないか。また、職員会議等の時間確保がむずかしくなるのではないか。

(3) プランC (長期休業を短縮する方法)

長期休業を短縮して増加時数35時間を確保する方法では、例えば、夏季休業を7日間短縮することになり、空調設備の整った学校での生活に支障は無いが、登下校時の暑さ対策や児童の気力面、体力面等に課題があるのではないか。また、春季休業や冬季休業は期間が短く、時期的にも短縮できないのではないか。

(4) プランD (45分を3分割するモジュール授業)

15分間モジュール授業を3回実施

	月	火	水	木	金
朝	15	朝会	15	朝会	15
1					
2					
休憩	中休	中休	中休	中休	中休
3					
4					
休憩	昼休	昼休	昼休	昼休	昼休
5					
6					

45分間を15分ごとの単位で週に3回モジュール授業を設定することは、週5日間の生活リズムに違いが生じ、児童が戸惑うのではないか。

モジュール授業において、外国語授業を実施することは、毎回の授業における学習への導入時間(イントロダクション)が多くなり、ロスタイムが増えるのではないか。

外国語指導に慣れていない教員は、ほぼ毎日のように外国語授業を実施しなければならないことに負担を感じるのではないか。

5 研究体制

(1) 検討会議

より教育効果の高いカリキュラムを創造するために、様々な視点からの意見を求め、より精度の高い研究成果を追究する。そのために関係機関に協力を求め有識者等による検討会議を組織し、研究の進捗状況について点検、確認するとともに、研究内容について協議し、研究の方向性を明らかにする。

(5) プランE (45分を5分割するモジュール授業)

45分間を5日間で分割する。この9分間の授業単元に1分間を付け足して10分間を授業枠を創り、週5日間連続してモジュール授業を行う。

このプランでは、10分間の授業枠を確保し、如何に効果的な授業を行うかがポイントとなる。

(2) RPC(研究推進会議)

(Research Promotion Conference)

研究目標の具現化のために、校内組織の中から関連部署の職員を持って構成する。

- ア 校長
- イ 教頭
- ウ 教務主任
- エ 研究主任
- オ カリキュラム・マネージャー
- カ 国語部主任
- キ 外国語教育部主任

6 研究の概要

宇治田原町では、
「プランE」(45分を5分割するモジュール授業)を採用、
「宇治田原スタイル」とし、研究の柱を3本立てた。

- (1) カリキュラム・マネジメント研究
より教育効果の高い時程の在り方についての研究
- (2) 外国語教育に係る研究
外国語の効果的な指導の在り方についての研究
- (3) 国語科研究
モジュール枠を活用した新出漢字指導や漢字の習熟、文法指導などの指導方法に係る研究

(2) 1年から6年まで、週5日間、10分間のモジュール授業を実施することによって、全校児童の生活リズムを同一化させ学校生活全体を安定させることができる。

(3) 1・2年で1日10分間のモジュール授業を行うことによって、それぞれ1時間ずつ授業枠を減ずることができる。

※現在、1年は全日5校時授業であるが、モジュール授業によって4校時授業の日を1日設定し、教員と児童の関わりの時間を増やすことができる。

7 宇治田原スタイルのメリット

(1) モジュール授業の内容は、国語科の「新出漢字の指導」の他、「漢字の習熟」や「文法の指導」を検討する。

※教員が指導慣れしている国語科の指導は、短時間の指導でも臨機応変に対応できる幅が広く授業の効率がよい。

※1日、1～2文字の新出漢字の指導により、児童に負担をかけすぎることなく漢字を習得させられる。

※国語科の指導であれば、1年から6年まで全校一斉に行うことができる。

※現在、2年は6校時授業の日が1日あるが、モジュール授業によって全ての日を5校時授業とすることができ、気力面、体力面で不安の多かった6校時目のある授業日をなくすることができる。

(4) 休憩時間と清掃時間を5分間ずつ短縮し、10分間のモジュール授業の時間を生み出すことにより、児童の学校滞在時間を増やさないようにする。

このことによって、職員の負担を増加させないようにする。(働き方改革への対応)

(5) 時間帯は3つのパターンを設定し、研究実践を通して効果検証を行う。

- ア Aパターン
1・2校時の間
- イ Bパターン
3・4校時の間
- ウ Cパターン
掃除と5校時の間

10分間モジュール授業		Bパターン				
	月	火	水	木	金	
朝の会・朝学習	15	15	15	15	15	
1						
5分休憩	5	5	5	5	5	
2						
中間休み	20	20	20	20	20	
3						
5分休憩	5	5	5	5	5	
モジュール授業	10	10	10	10	10	
5分休憩	5	5	5	5	5	
4						
給食	45	45	45	45	45	
昼休み	20	20	20	20	20	
清掃	15	15		15	15	
5						
6						

8 運用方法

(1) モジュール授業回数

週5回 × 35週 = 175回 (基本回数)

(2) 平成32年度における学年別漢字配当 (モジュール1コマに対し漢字1～2文字指導)

- ア 第1学年… 80字(1コマ1文字指導 80コマ)
- イ 第2学年… 160字(1コマ1文字指導 160コマ)
- ウ 第3学年… 200字(1コマ2文字指導 100コマ)
- エ 第4学年… 202字(1コマ2文字指導 101コマ)
- オ 第5学年… 193字(1コマ2文字指導 97コマ)
- カ 第6学年… 191字(1コマ2文字指導 96コマ)

(3) 電子黒板を活用した漢字指導方法「宇治田原スタンダード」を定め、全校統一方式での指導を行う。

(4) 1年は「漢字」に加えて、「ひらがな」や「カタカナ」の習熟指導をモジュール授業で行う。

(5) 漢字の習熟のために、本校独自のソフト開発を行う。

(6) 文法指導や語彙量を増やす教材のソフト開発を行う。

9 時間設定

漢字の広場など漢字に関わる指導時間と予備時数から、モジュール授業の35時間を生み出すが、結果的に国語の指導時数が標準時数を上回り、国語科の授業を充実させることができる。

10 研修計画

(1) 全体研修

- ア カリキュラム・マネジメントに係る概論研修
- イ 外国語活動の充実に係る研修
- ウ 語彙指導を中心とした授業力向上研修

(2) 管外研修

ア カリキュラム・マネジメント

これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究採択校等を視察し、カリキュラム・マネジメントの研究手法や研究の進捗状況について調査する。

イ 外国語教育

外国語教育研究の先進校を視察し、新学習指導要領の実施に向けた教材研究や授業方法、体制づくり等について研究する。

ウ 国語科教育

国語科、特に漢字指導や文法指導で卓越した実践を行う先進校を視察し、教材開発や指導方法の工夫等について研究する。

(3) 教員は、5分ないし10分で1文字指導する指導方法の習熟に取り組んでいる。

(4) 新出漢字の定着状況について、1学期末に昨年度との比較検証を行う。



11 実施状況

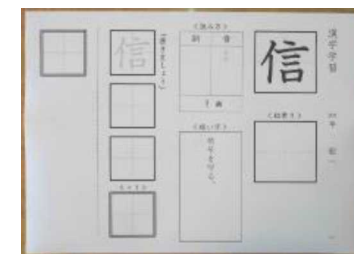
(1) 平成30年4月10日から、宇治田原町の2小学校で先行実施開始

(2) リズミカルでテンポのよい指導のもと、児童はモジュール授業を楽しそうに受けている。



(5) 本年度末には、次年度当初の学習単元の新出漢字の先取り指導を行い、1学期の学習が円滑に展開できるようにする。

(新出漢字の先取り指導については、
学習指導要領参照)



ご清聴ありがとうございました。

本町の研究に対しまして、ご指導、ご助言
よろしくお願い申し上げます。

